

平成28年度 奈良市エイズ対策と課題

後天性免疫不全症候群に関する 特定感染症予防指針

【基本的な考え方】

- 1 疾病概念の変化に対応した施策展開
- 2 国と地方公共団体との役割分担の明確化
- 3 施策の重点化

【施策の3本柱】

- 1 普及啓発及び教育：個別施策層に重点をおいた普及啓発等
- 2 検査相談体制の充実：利便性の高い検査体制構築
(平日夜間・休日・迅速検査等)等
- 3 医療の提供：中核拠点病院の整備を始めとした医療体制の確保

引用：厚生労働省ホームページ HIV/エイズ予防対策より

奈良市のエイズ対策

1 若年層(ターゲットは高校生)へのHIV感染予防のための対策

1)正しい知識の普及

2 HIV感染者の早期発見・早期治療のための対策

1)HIV抗体検査・相談の普及

2)感染不安の軽減と行動変容のための検査・相談体制の充実

3)医療機関等への啓発

3 陽性者への支援のための対策

1)エイズ拠点病院との連携した陽性者支援

1.若年層(ターゲットは高校生)への HIV感染予防のための対策

1)「正しい知識の普及」

- ①高校でのエイズ教育
- ②高校文化祭でのエイズコーナー
- ③HIV啓発媒体の配布
- ④市内公立高校とのエイズ教育についての情報共有

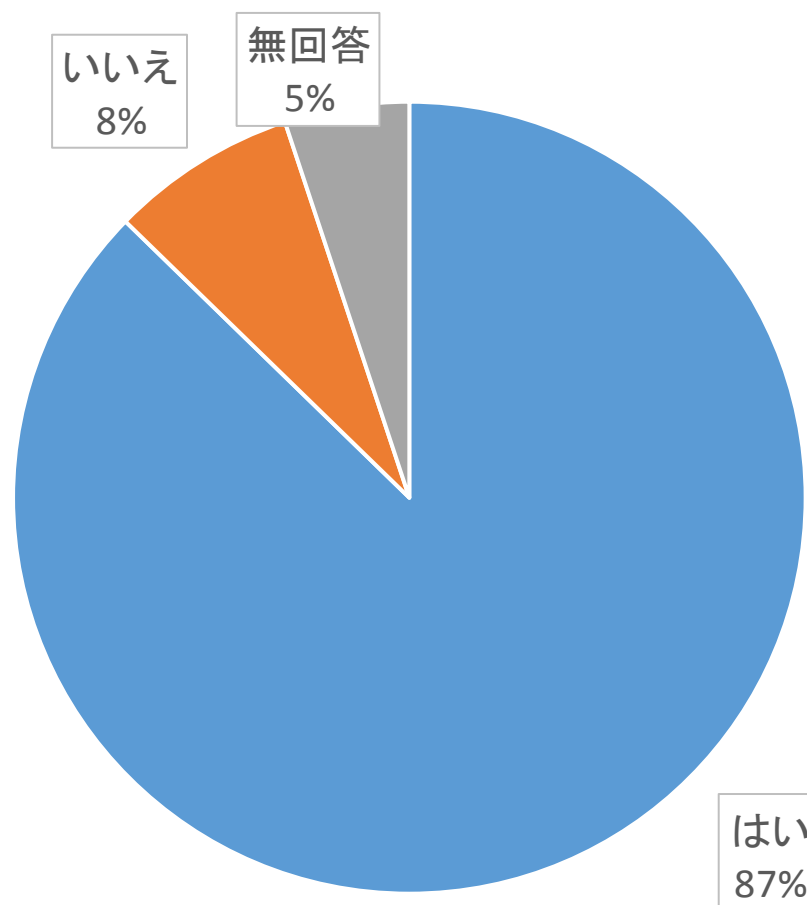
1.若年層(ターゲットは高校生)への HIV感染予防のための対策

1)「正しい知識の普及」

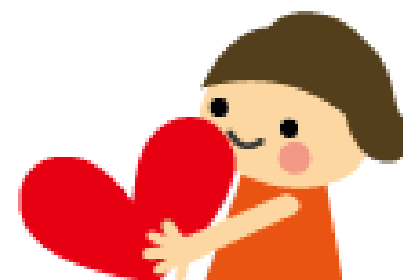
①高校でのエイズ教育

高校	日にち	対象学年	出席数
西の京高校	平成28年 11月16日	高校1年生	304人
奈良女子高校	平成28年 6月26日	高校2年生	118人

役に立つ知識が得られましたか



N=118
(複数回答
可)

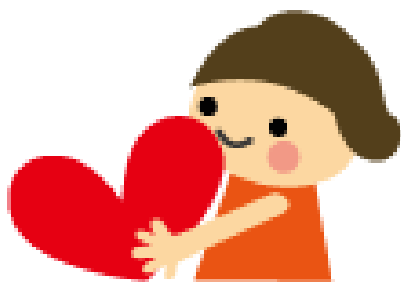
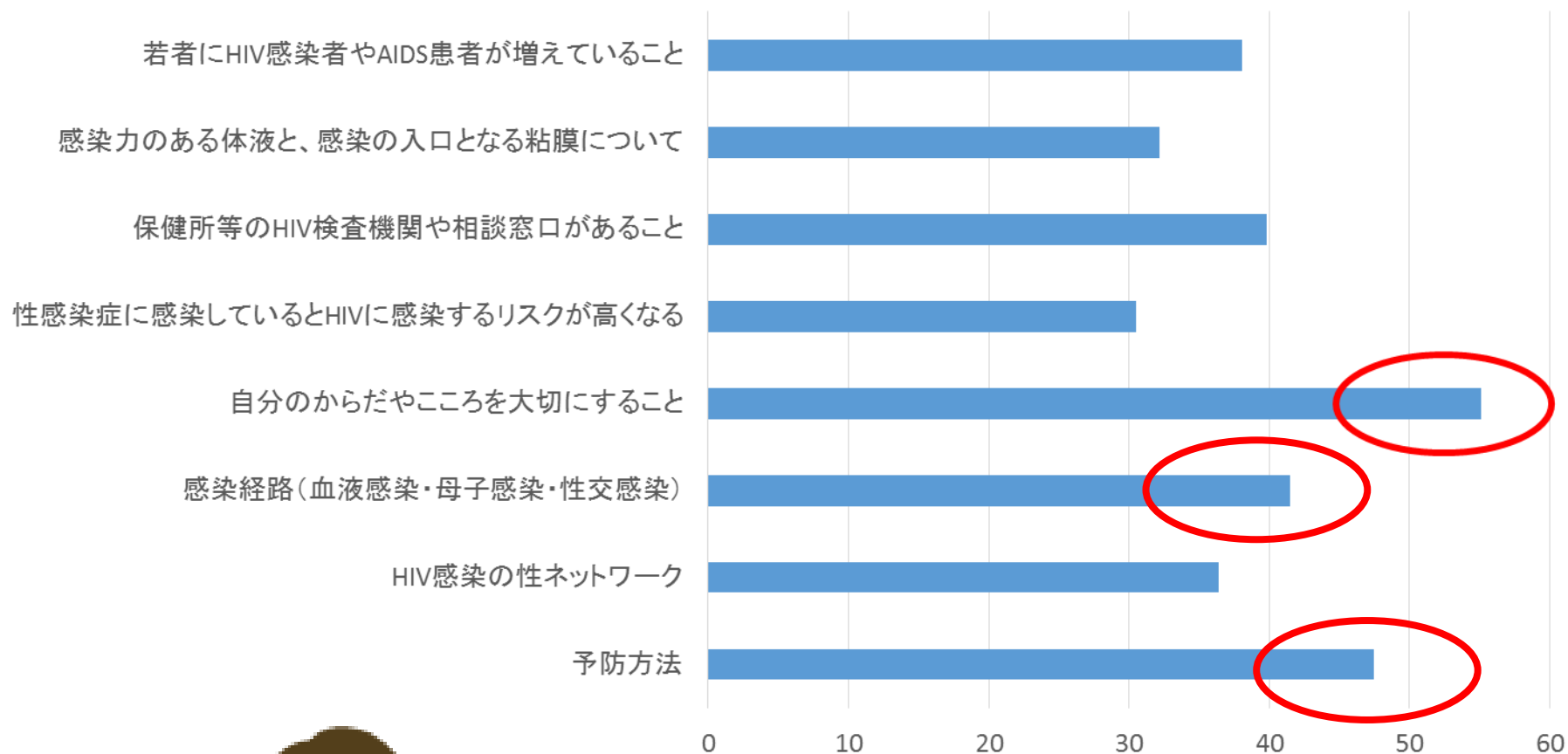


■ はい ■ いいえ ■ 無回答

奈良女子高校アンケート結果

役に立つ知識(複数回答可)

N=118



奈良女子高校アンケート結果

理解度

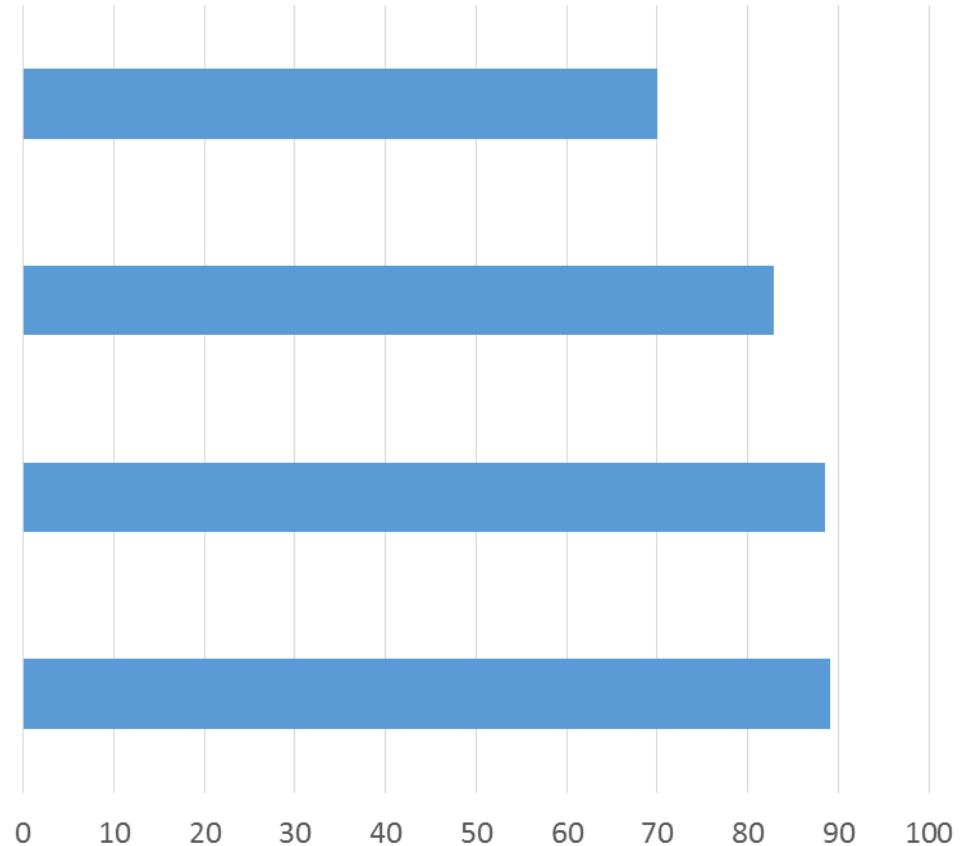
N=308

HIV/AIDSや望まない
妊娠は自分に関係がある

相談先

予防方法

感染経路

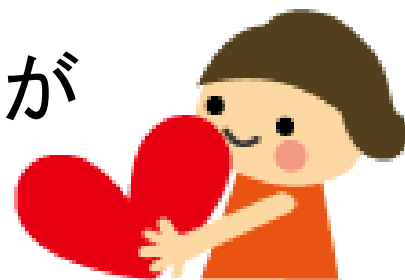


西の京高校アンケート結果

エイズ教育アンケート結果

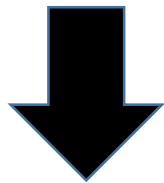
- ①改めて自分の身体を大切にしようと思った。
- ②相手も自分も大切だと思う。
- ③赤ちゃんを作るときは注意する。
- ④将来自分が子どもを産む上で必要な知識だと思った。
- ⑤正しい知識を知る機会があることは大切だと思った。
- ⑥中学の保健の授業で習っていないことが聞けてよかった。

(一部抜粋)



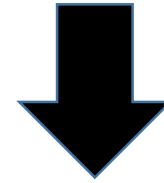
エイズ教育アンケート結果まとめ

HIVを含む性感染症を通じて
自分の生き方を考えるお話

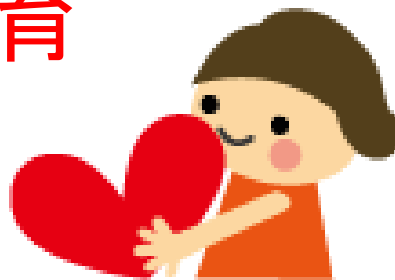


対象のニーズに
応じた健康教育

授業以外で学ぶ機会が得られる
新しい知識を得ることができる



知識が深まる
継続した教育



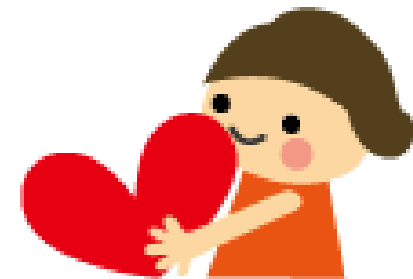
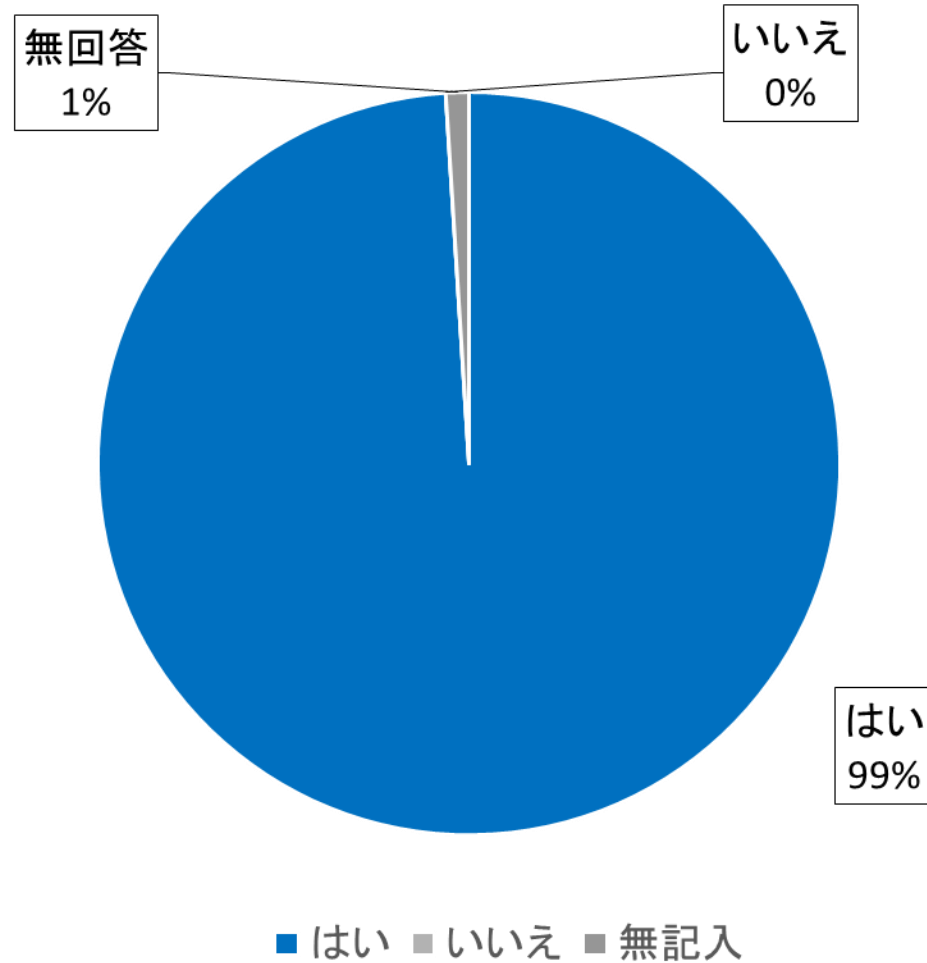
1. 若年層（ターゲットは高校生）への HIV感染予防のための対策

1) 正しい知識の普及

② 高校文化祭でのエイズコーナー

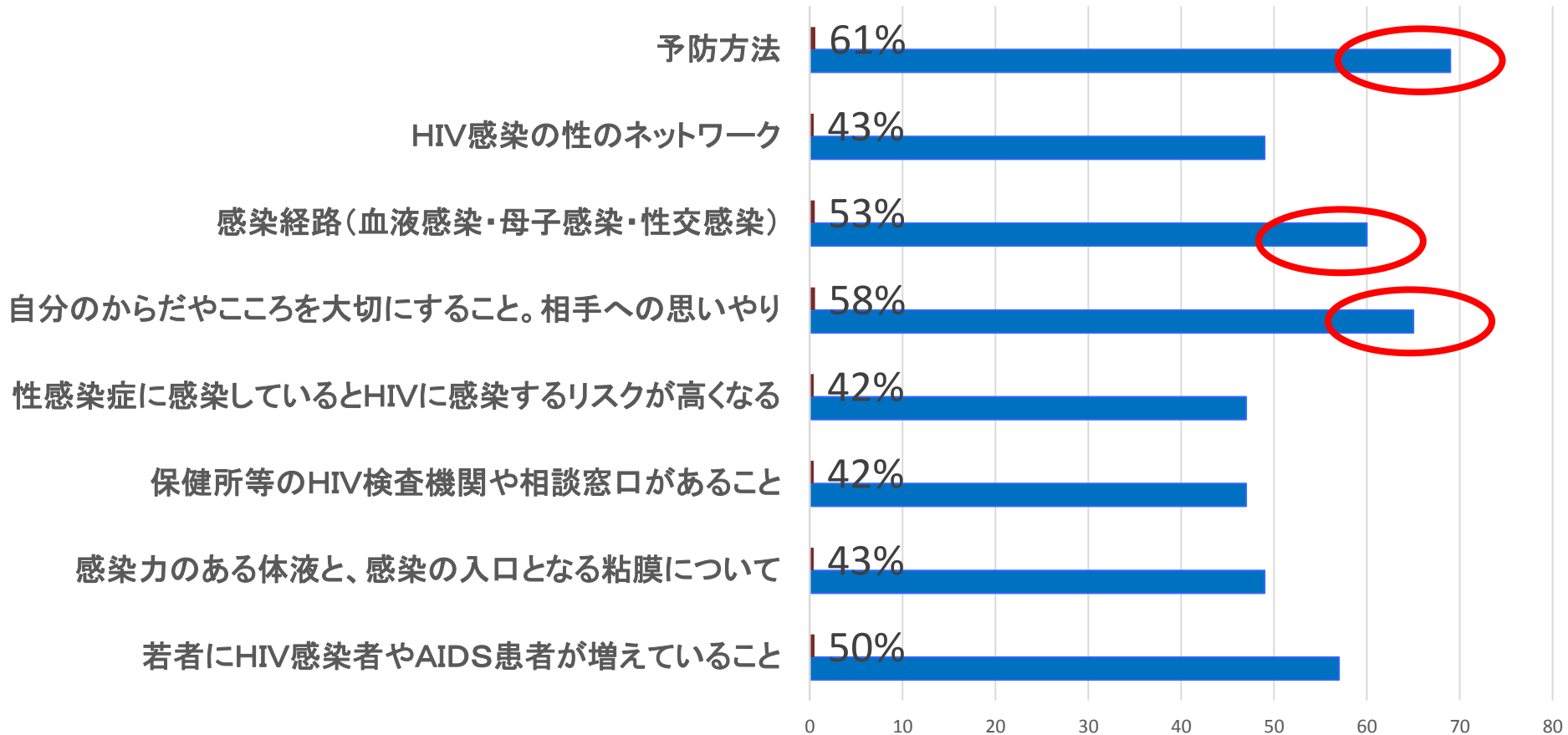
高校	日にち	参加人数
平城高校 (H17年度から継続)	平成28年9月2日	57人
高円高校 (H22年度から継続)	平成28年9月9日	56人

役に立つ知識が得られましたか



役に立つ知識が得られたか(複数回答可)

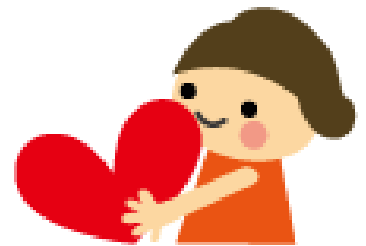
N=113



高校文化祭時のアンケート結果

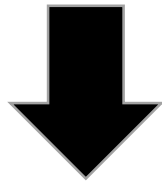
- ①授業で習っていないことまで聞いた。
- ②正しく対処したい。
- ③良い機会だった。
- ④前に習ったことを思い出すきっかけになった。
- ⑤今まであまり意識してこなかったが知っておく必要がある。
- ⑥自分もなり得る身近なもの。

(一部抜粋)



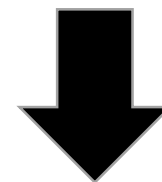
エイズ教育アンケート結果まとめ

コンドームワークの実施
少人数のグループワーク

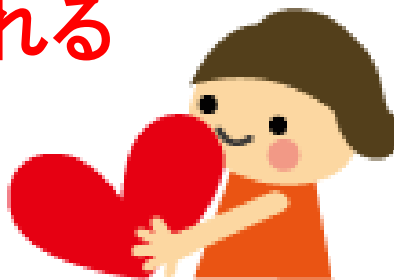


具体的な予防方法の習得
丁寧に知識を伝えられる

クイズやゲームを通じた教育



HIVが身近なものであるという認識



1.若年層(ターゲットは高校生)への HIV感染予防のための対策

1)正しい知識の普及 ③HIV啓発媒体の配布

目的:保健所のHIV抗体検査を知ってもらうことで、将来
感染不安が生じた時に、早期に受検ができるよ
うにする

対象:市内公立高校の学生

配布時期:世界エイズデー普及週間時の啓発



エイズ検査は保健所へ

検査は無料・匿名で受けられます

奈良市保健所 HIV 抗体検査

実施日: 毎月第1・2・3月曜日 13:30~15:00

休日・夜間検査は「バ・ダ・しみんだより」を参照してください

場 所: 奈良市三条本町 13-1 奈良市保健所 4階

予 約: 要予約(当日までに保健予防課へお電話下さい)

電 話: 0742-93-8397

結 果: 約1時間後にわかります



1. 若年層（ターゲットは高校生）への HIV感染予防のための対策

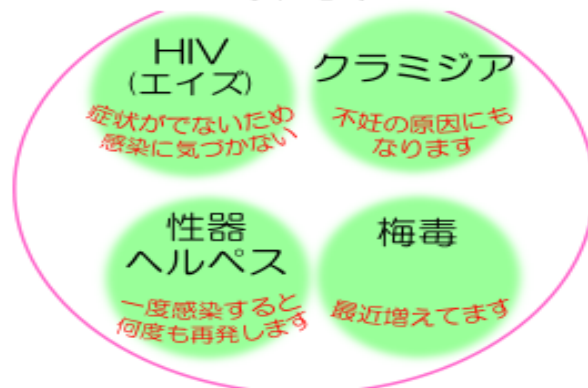
1) 正しい知識の普及 ③ HIV啓発媒体の配布

健康増進課と協働し、子宮頸がん検診啓発
の際のHIV関連冊子の配布

STI【性感染症】
(Sexually Transmitted Infection)

性行為あるいはそれに近い行為で
うつる（感染する）病気の総称

主な性感染症



どうすれば予防できるの？

NO SEX（セックスしない）

ノーセックスも予防のための大事な選択肢です。

SAFE SEX（安全なセックス）

今は特定の相手しかいなくても、過去に他の人と性的接触があれば過去のパートナーからの感染の可能性があります。

ただし、二人とも感染していないことが確実で、お互いに他のセックスパートナーがいなければ、二人のセックスは安全です。

SAFER SEX（より安全なセックス）

コンドームを正しく使うことが有効です。

HOW TO WEAR A CONDOM
(19ページ)



※HIV抗体検査は全国の保健所で、**匿名・無料**で検査できます

1.若年層(ターゲットは高校生)への HIV感染予防のための対策

④市内公立高校とのエイズ教育についての情報共有

目的	・市内公立高校のエイズ教育の取り組みについて知る。 ・奈良市保健所の高校生に対するHIV感染予防のための取り組みについて知ってもらう。
内容	・奈良市保健所の高校生に対するHIV感染予防のための取り組みを周知 ・各高校が実施しているエイズ教育についての情報収集
対象	奈良市内の県立、市立高校8校の養護教諭又は保健体育教諭

奈良市保健所が想定する高校の関心度ステージ

(奈良市内県立・市立高校全8校、私立高校1校)



無関心期

保健所のエイズ健康教育導入の必要性を感じていない

関心期

保健所のエイズ健康教育導入について必要性を感じ検討する気持ちがある

実行期

保健所のエイズ健康教育導入について必要性を感じ依頼がある

維持期

保健所のエイズ健康教育導入が継続している又は高校独自で教育している

E高校

A高校

B高校

C高校

奈良女子高校
(H26年度)

平城高校 (H17年度～)

高円高校 (H22年度～)

西の京高校 (H24年度～)

D高校

保健所の働きかけ

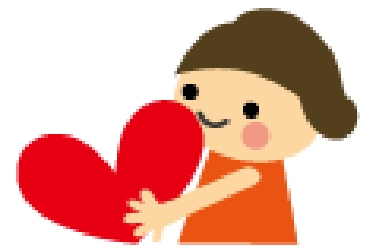
備考: 私立高校は全7校

結果

- A,B校からは依頼なし。

新規

C校より文化祭でのエイズ教材貸し出し依頼あり



1 若年層（ターゲットは高校生）への HIV感染予防のための対策

【まとめ】

継続して働きかけを行うことで学校教育の場での保健所のエイズ教育の実施につながった。

実施方法については学校の関心度やニーズに応じた対応が必要である。

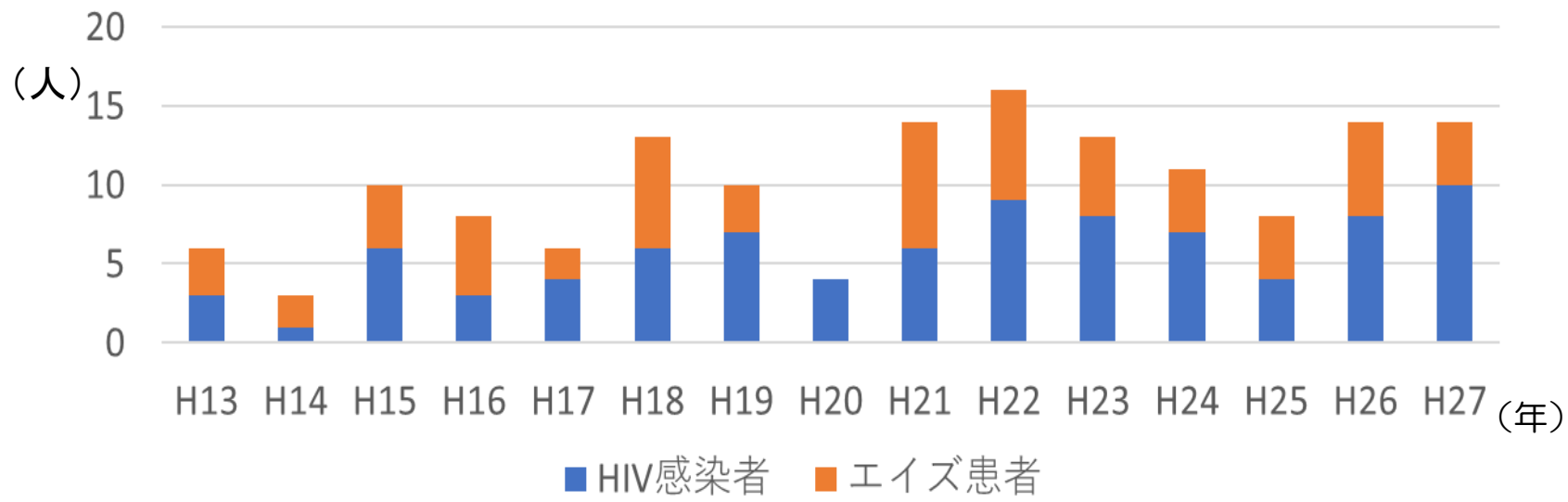
2.HIV感染者の早期発見・早期治療のための対策

1) HIV抗体検査・相談の普及

2) 感染不安の軽減と行動変容のための
検査・相談体制の充実

3) 医療機関へのHIV感染早期発見のための啓発

奈良県・奈良市HIV/AIDS報告数(年次推移)



		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全国	HIV感染者	621	614	640	780	832	952	1082	1126	1021	1075	1056	1022	1106	1091	1006	
	エイズ患者	332	308	336	385	367	406	418	431	431	469	473	447	484	455	428	
	いきなりエイズ率	34.8	33.4	34.4	33	30.6	29.9	27.9	27.8	29.7	30.4	30.9	30.4	30.4	29.4	29.8	
奈良県	HIV感染者	3	1	6	3	4	6	7	4	6	9	8	7	4	8	10	
	エイズ患者	3	2	4	5	2	7	3	0	8	7	5	4	4	6	4	
	いきなりエイズ率	50	33.3	40	62.5	33.3	53.8	42.9	0	57.1	43.8	38.4	36.4	50	42.8	28.6	
奈良市	HIV感染者	—	1	0	0	0	0	2	0	1	3	0	1	1	1	3	0
	エイズ患者	—	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成28年 HIV相談及び即日検査

対象：平成28年1月～12月のH I V抗体検査受検者

評価項目：

- 1) 受検票
- 2) 検査・相談後アンケート

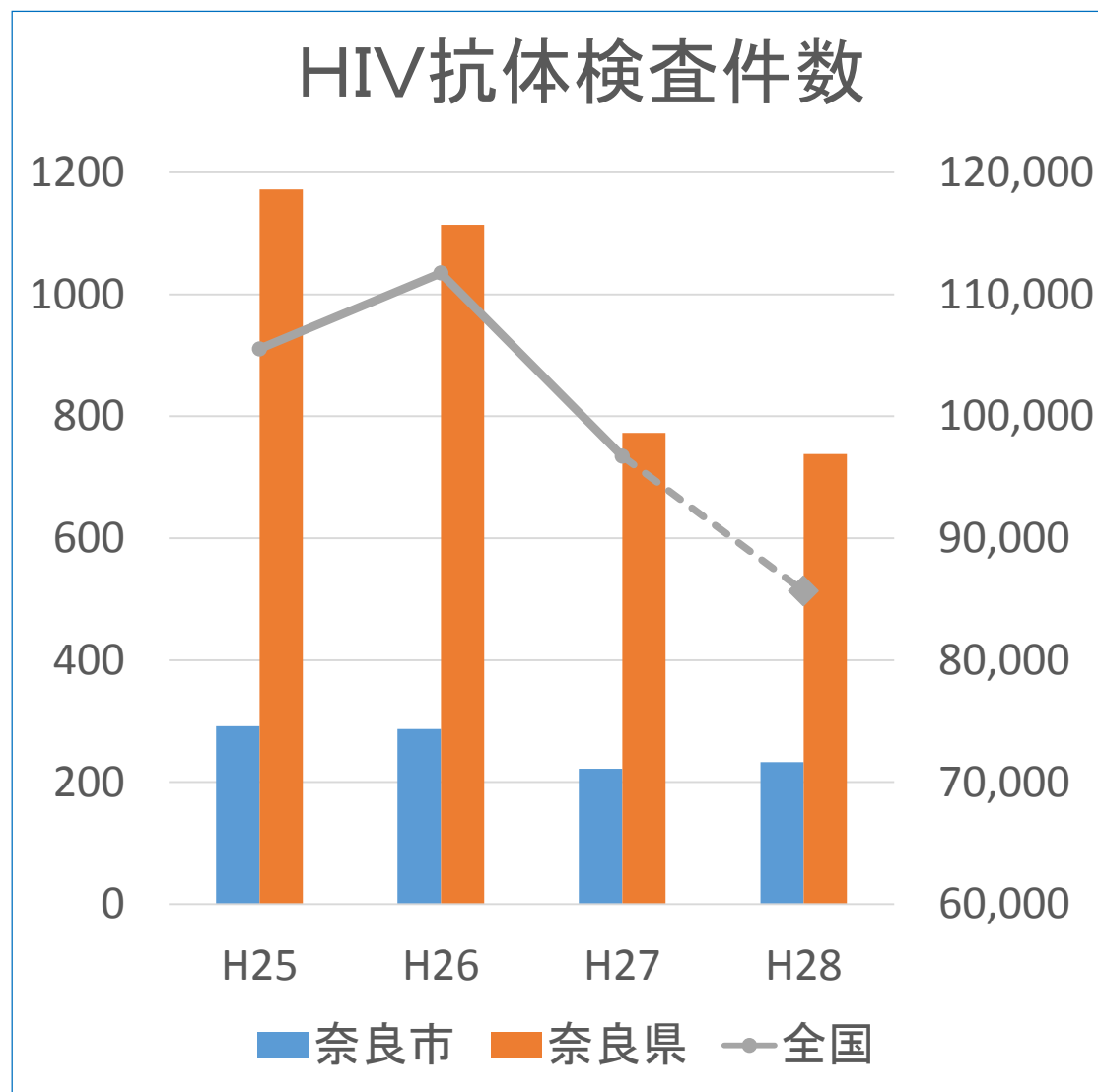
回答数：218人（受検者数233人）

回収率93.6%

1) HIV抗体検査実施状況：①受検者数の推移

奈良市保健所 受検者数

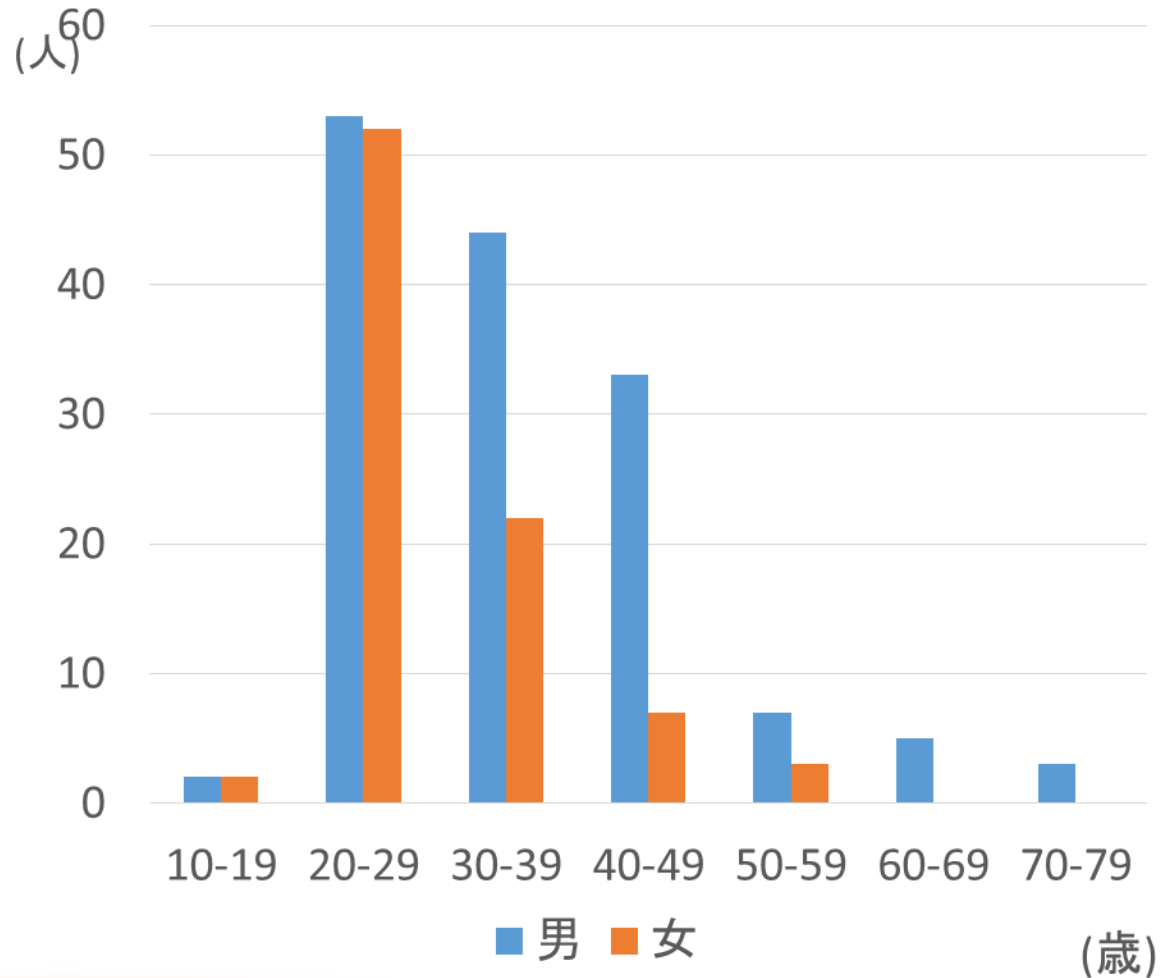
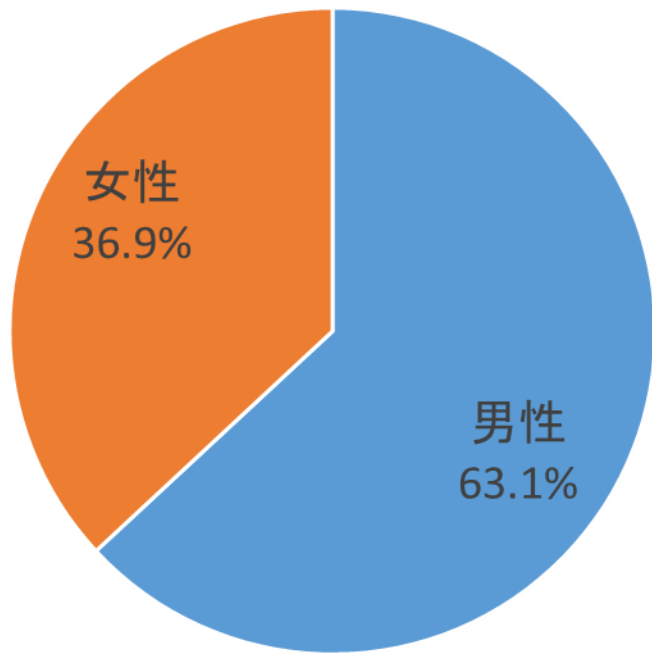
年	受検者数	陽性者数	回数	平均受検者数
23	247	0	30	8
24	292	0	32	9
25	292	0	33	9
26	287	1	33	9
27	222	0	29	8
28	233	0	31	7



エイズ発生動向年報より

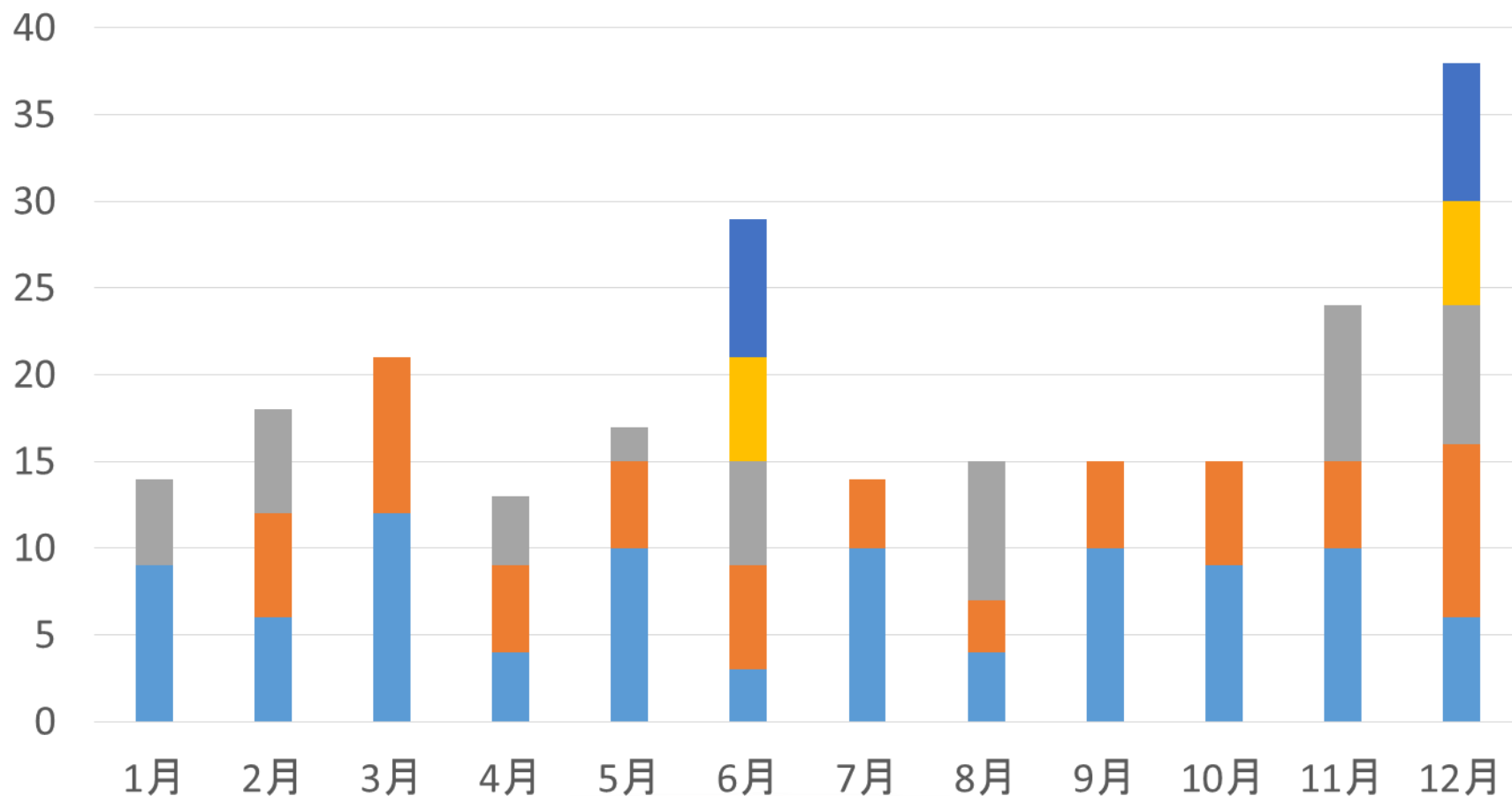
※平成28年全国の件数は参考推計値

1) HIV抗体検査実施状況：②受検者内訳



男女比 約6：4。
20～29歳が全体の45.1%を占める。

1) HIV抗体検査実施状況：③月別受検者数

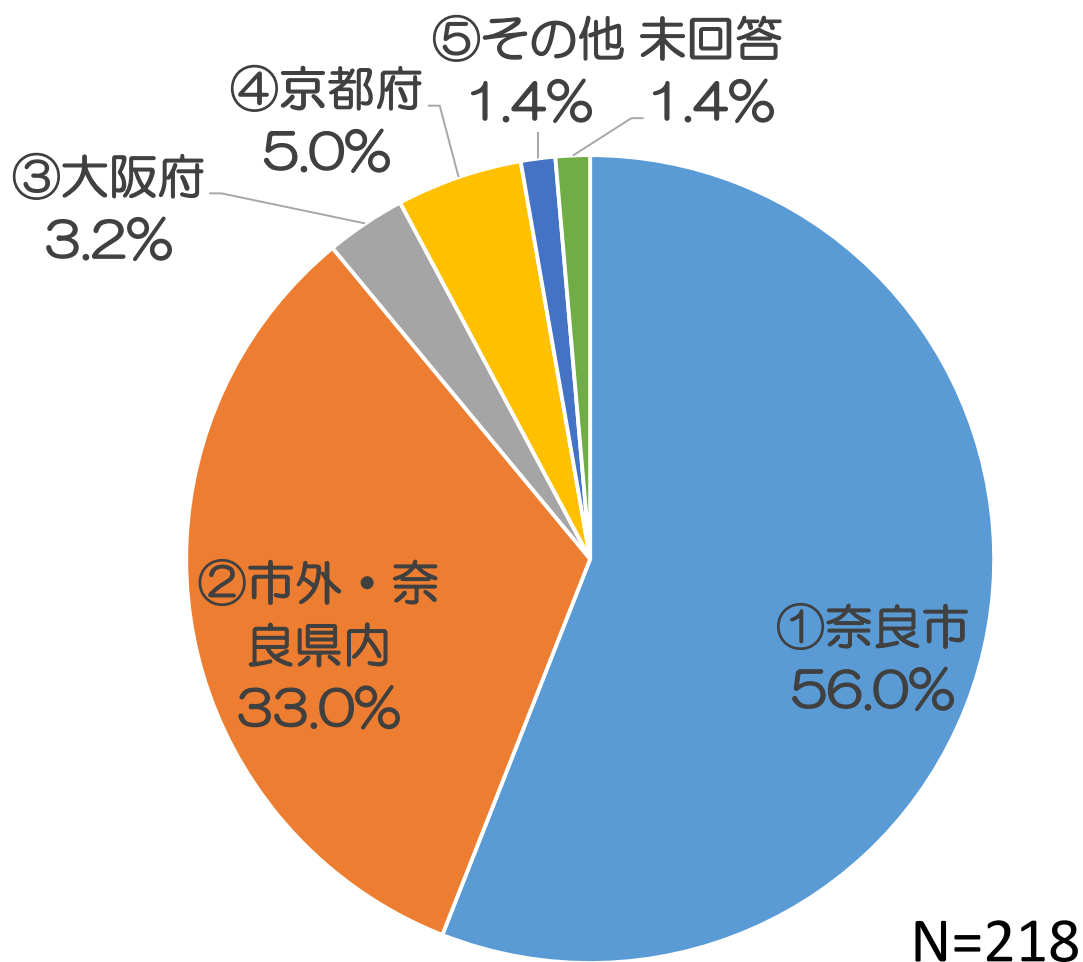


啓発強化月間（HIV検査普及週間・世界エイズデー）時は休日夜間検査の受検者も含め、受検者数増加。

性に対してオープンになる時期やイベントの3ヵ月後に受検者は多い傾向。

2) 受検者背景：①住所地別

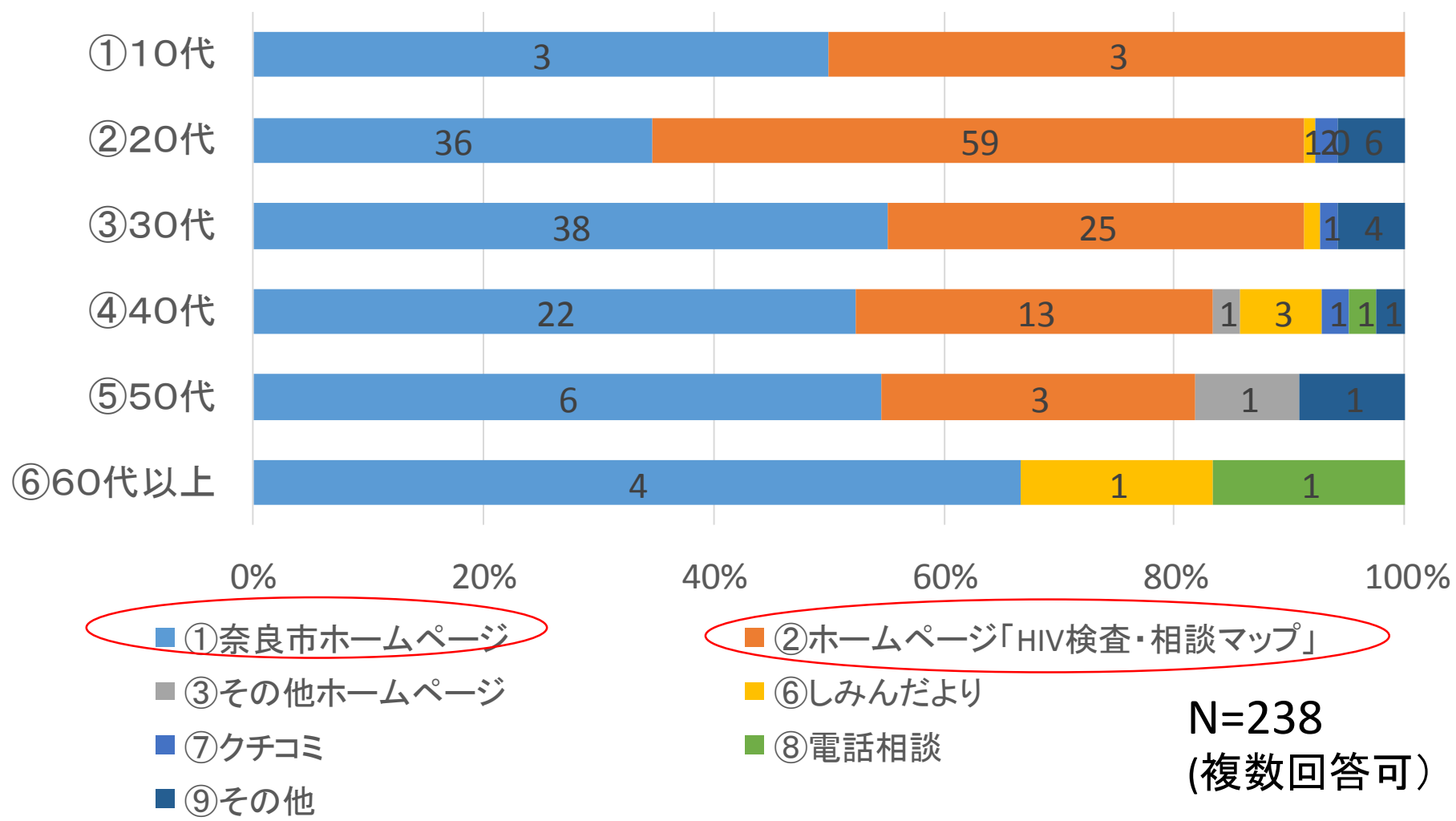
※アンケート集計より



市内受検者が半数以上であり、市民に対して身近な検査所となり得ている。

2) 受検者背景：②HIV抗体検査を何で知ったのか

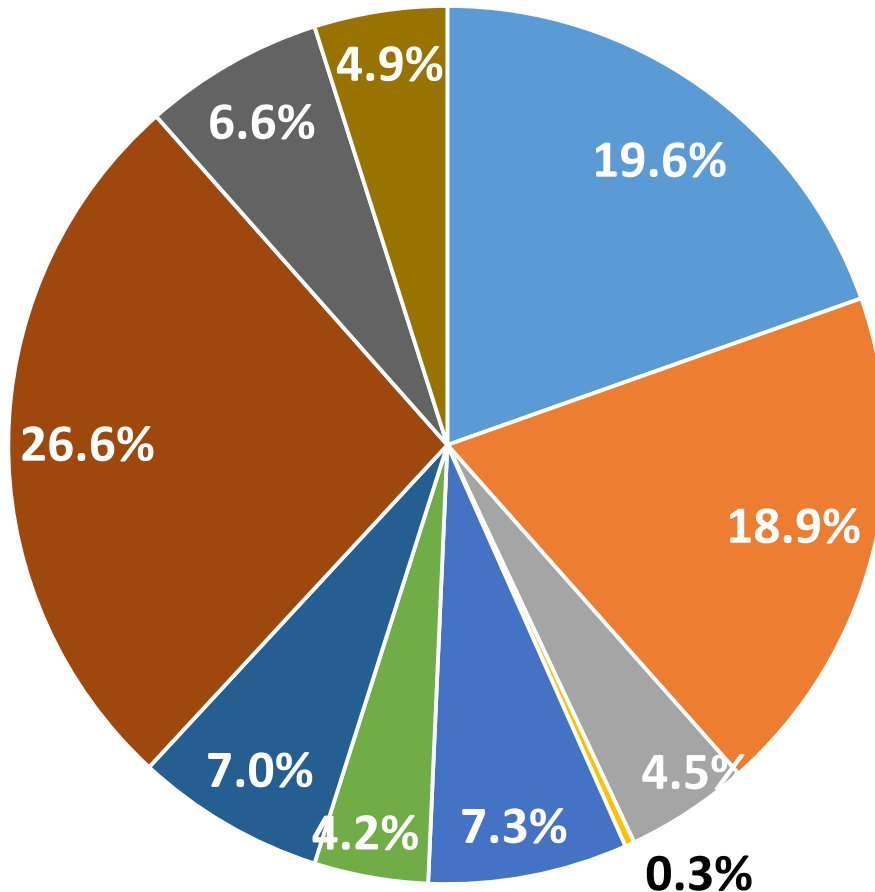
※アンケート集計より



インターネットを見て受検されている方がほとんどを占める。
50～60歳代の方もインターネットを見て受検されている。

2) 受検者背景：③受検理由

※アンケート集計より

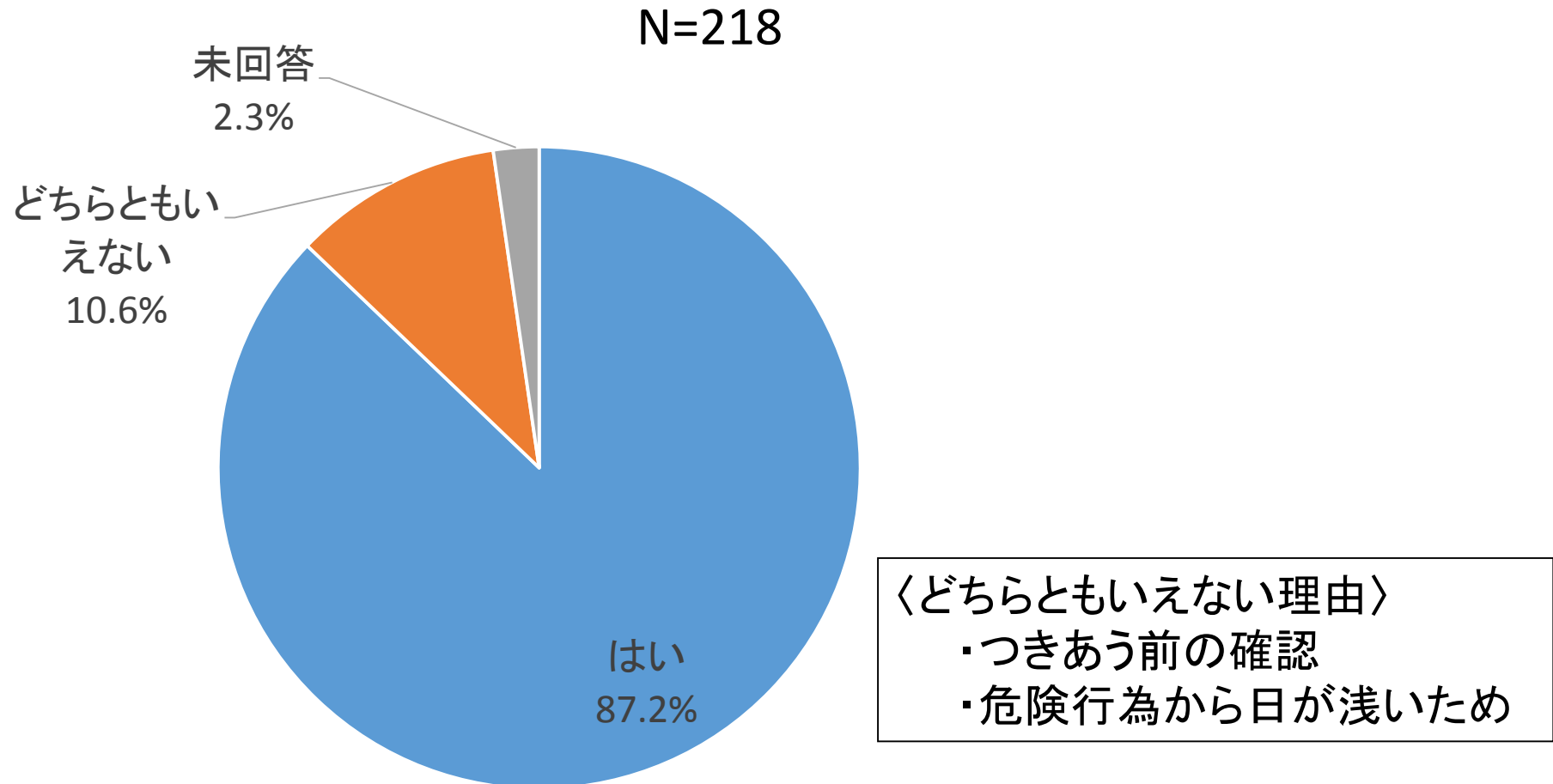


- ①感染の可能性がある
- ②体調に変化があり不安
- ③TV・ラジオ・HPをみて
- ④パートナーの感染が分かった
- ⑤恋人ができた
- ⑥性感染症にかかった
- ⑦結婚する
- ⑧ただ単に結果を知りたい
- ⑨定期的に受けている
- ⑩人に勧められた

感染不安や体調の変化等の不安を抱いて受検している。
恋人ができた・結婚をきっかけに受検している。

3) 満足度：①不安軽減

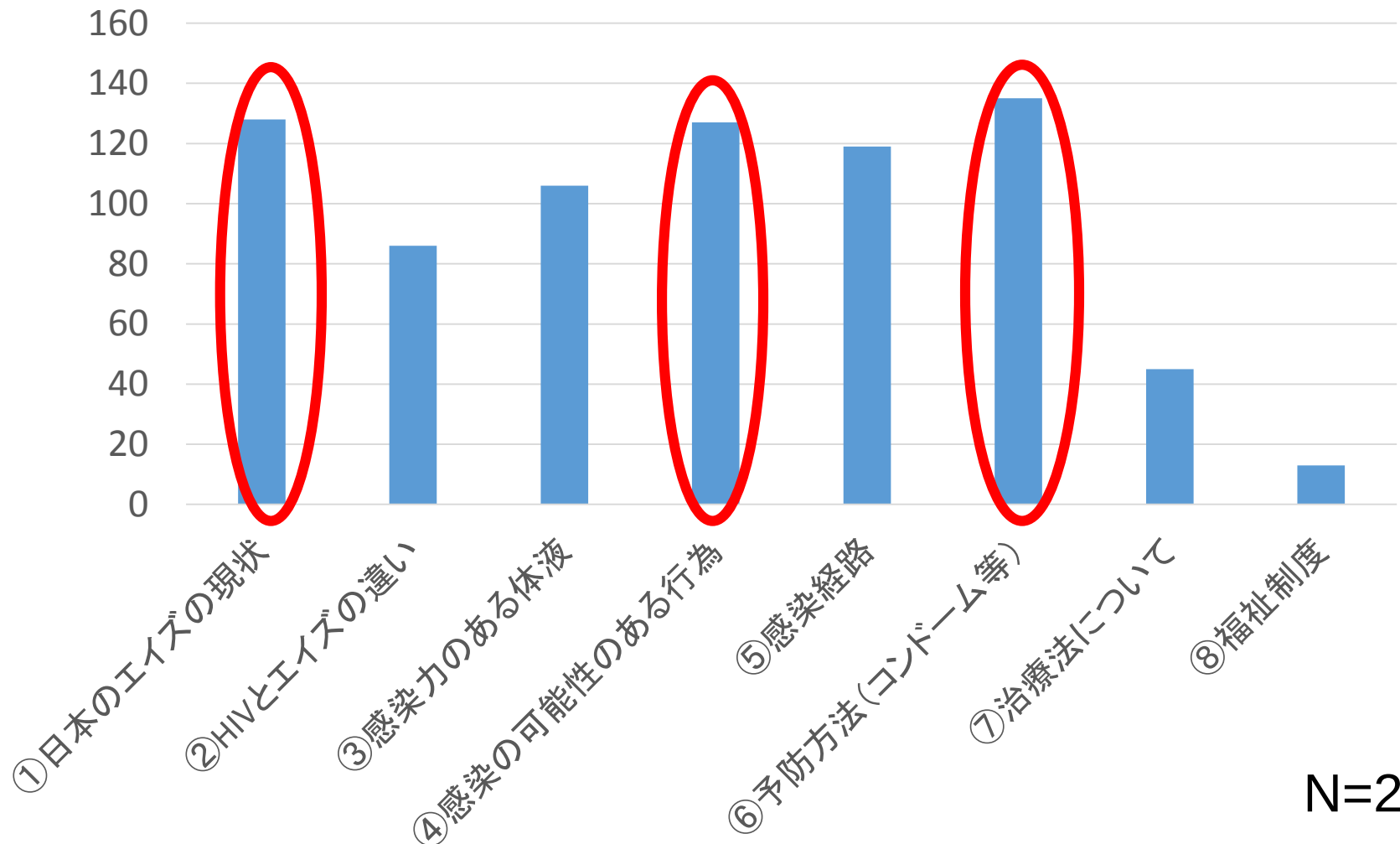
※アンケート集計より



受検者の9割が不安・心配が和らいでいる。
1割はウィンドウピリオドが過ぎておらず、不安が和らいでいない。 31

3) 満足度：②役立つ情報として得られた内容

※アンケート集計より

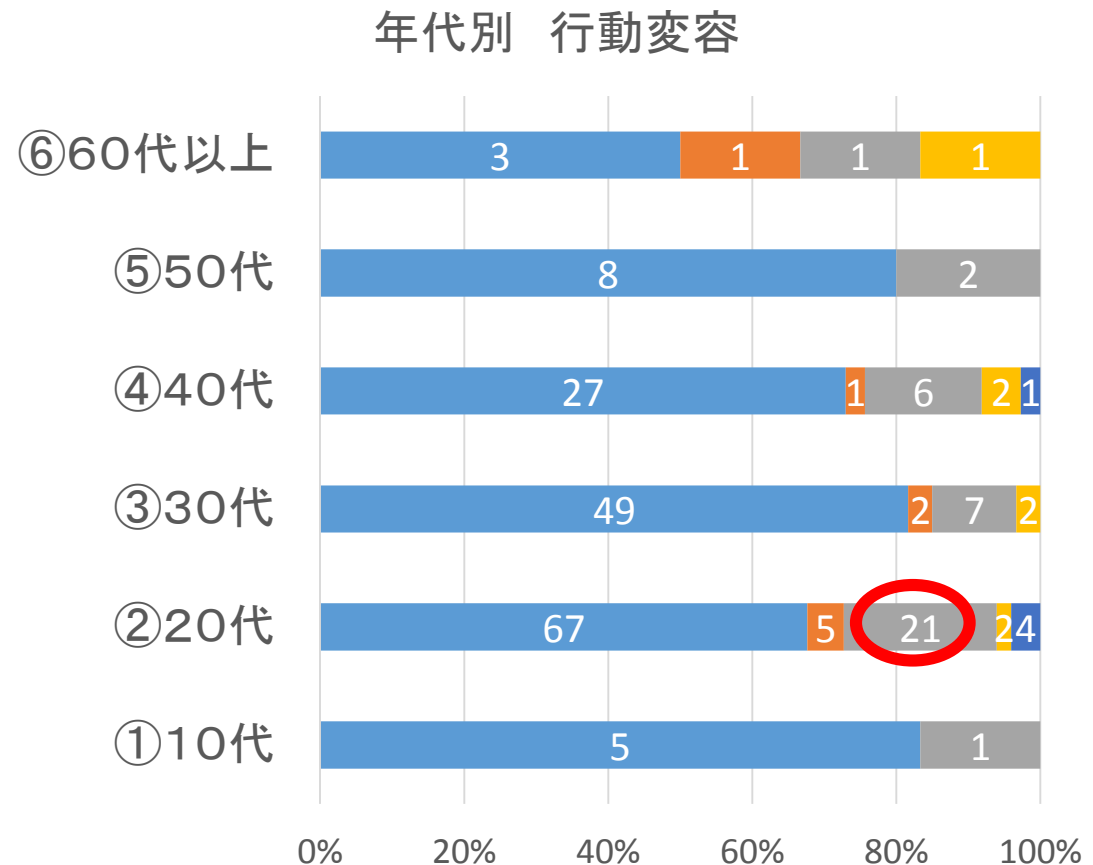
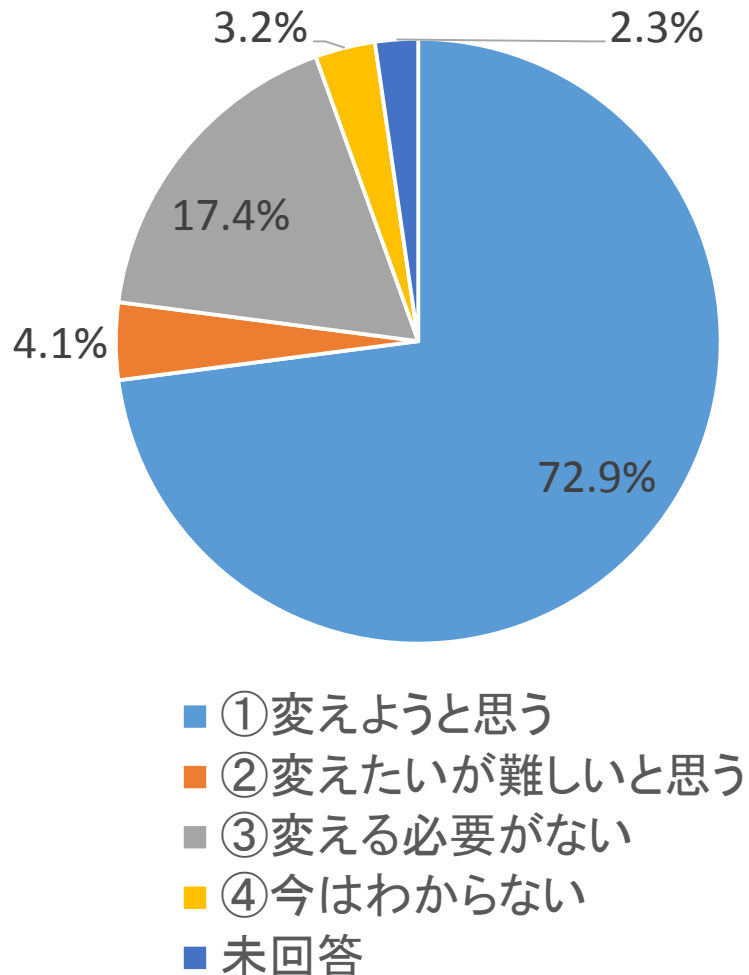


N=218

日本の現状・感染経路・予防方法について役立つと答えている。
ポストカウンセリングの意識づけができています。

3) 満足度：③行動変容

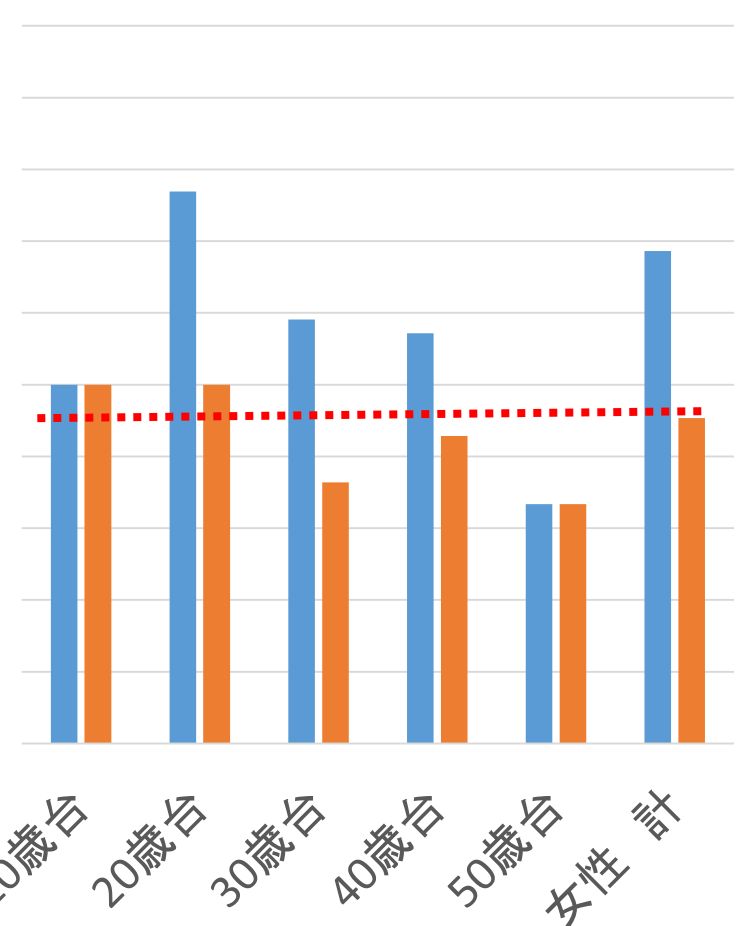
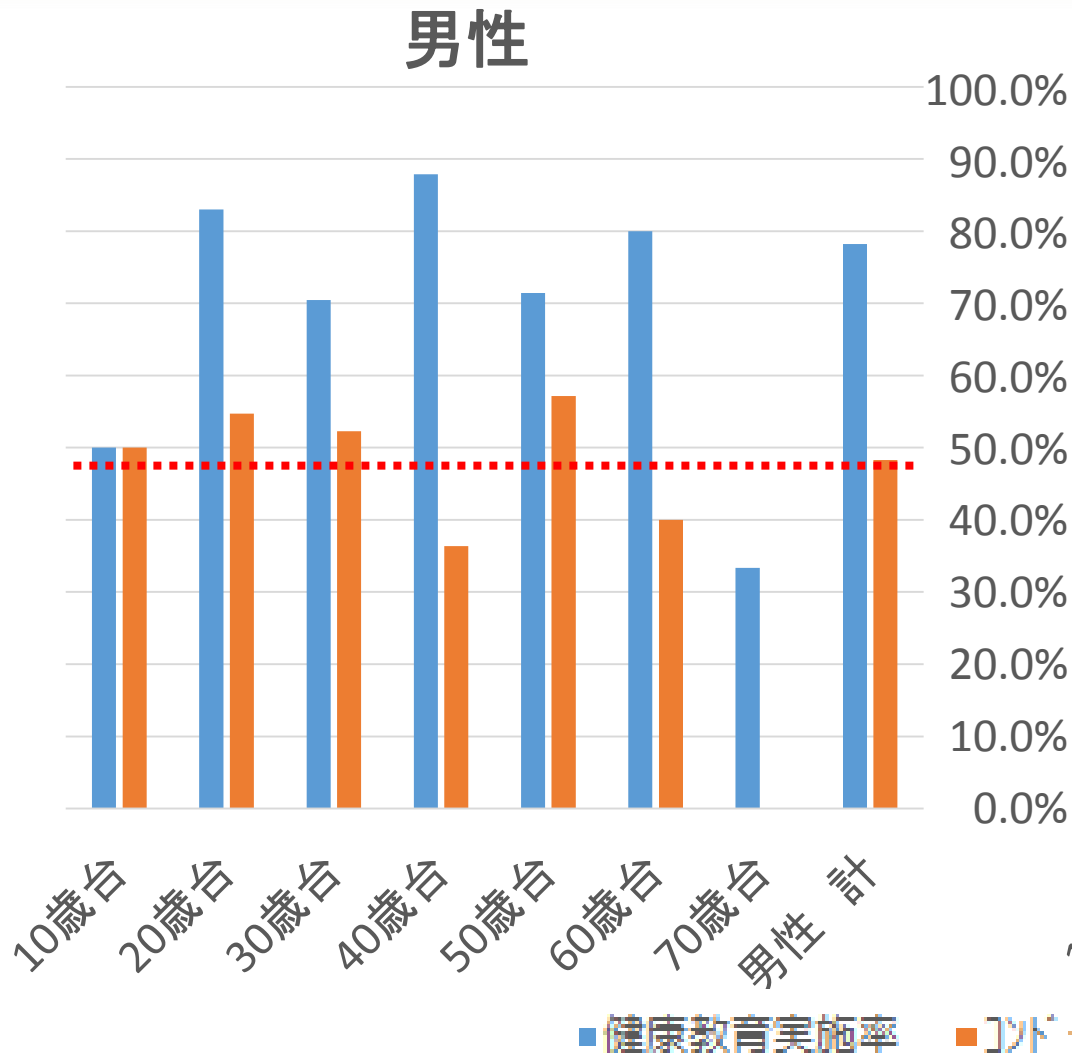
※アンケート集計より



行動変容の意識づけができていないのは7割。
20代についてポストカウンセリングの強化が必要。

コンドームワークの実施状況

※アンケート集計より
女性



コンドームワークの実施率は約50%。
20～30歳台男性及び20歳台女性はそれぞれ平均以上実施できている。³⁴

受検者の多様化：事例『MSM』

男性 20歳台
HIV検査は初めて

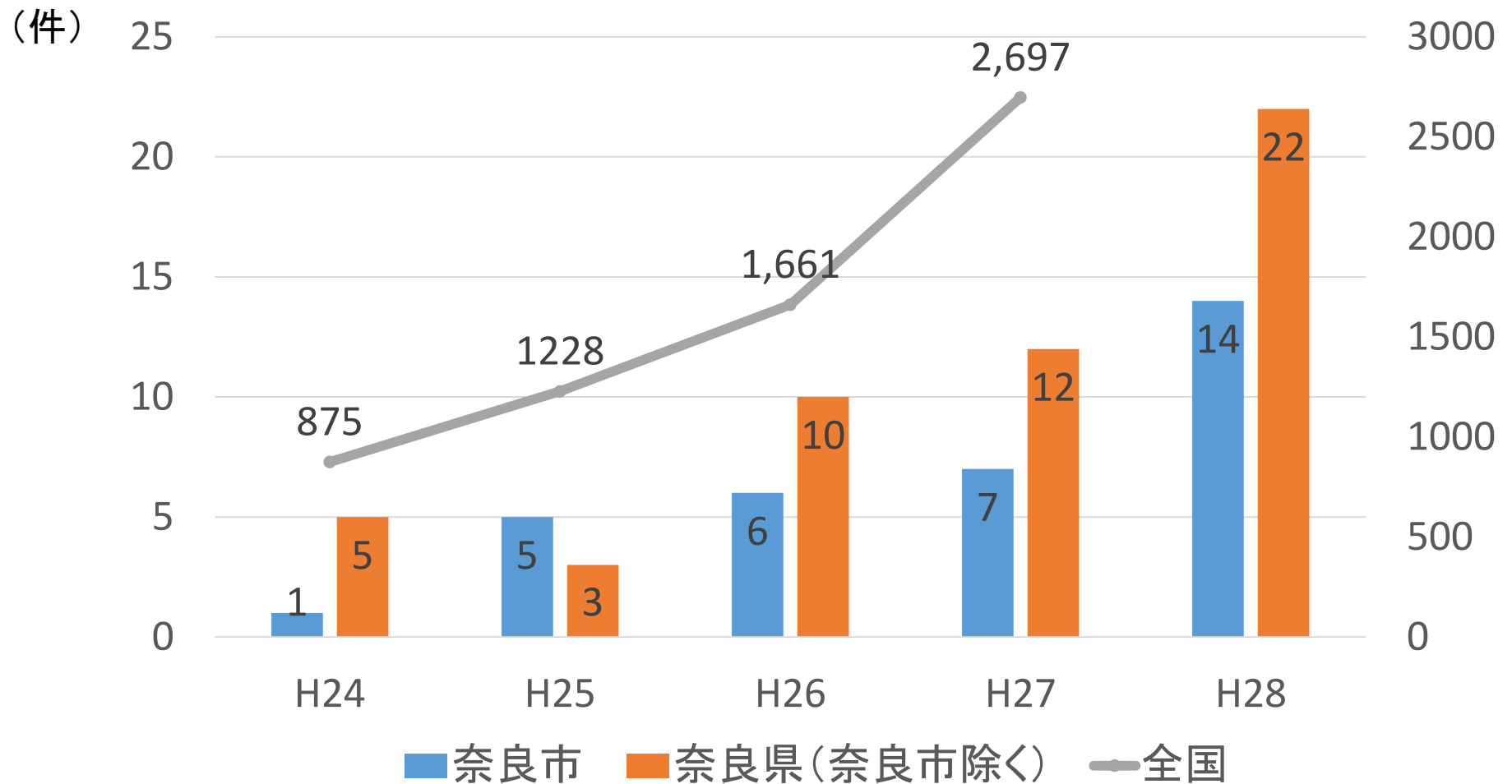
きいたこと

- 性行為の相手は男性
- 相手は複数（不特定）
- 相手によってする側だったりされる側だったり両方のリスクあり
- 普段コンドームは使用していない。

指導法

- ①通常のホストクラブリグ
 - 感染力のある体液
 - 感染経路
 - コンドームを使用した予防法
- ②個別性の指導
 - コンドームを使用できない場合、感染のリスクをできるだけ下げる行動
 - 定期的に検査を受ける

梅毒 発生動向



5年前に比べ増加傾向。平成28年は前年度の2倍に増加。

2.HIV感染者の早期発見・早期治療のための対策

3) 医療機関等への啓発

配布先：市内350医療機関

配布内容：

「HIV感染症について知っておいて欲しいこと」

市立奈良病院 佐藤 公俊 医師 監修

- ・性感染症とあわせてHIV感染症の重要性について
- ・奈良県のエイズ患者数・保健所の検査案内

2.HIV感染者の早期発見・早期治療のための対策

課題

- HIV抗体検査受検者数は一定数維持されている。周知啓発を継続し、希望する人が受検しやすいように検査体制の整備が必要である。
- 早期発見はもちろんのこと、健康教育としての機能が発揮できるよう、支援者のスキルアップが重要である。特に多様化する受検者に対して効果的な指導ができるよう質の向上を目指すことが必要である。
- HIV感染者の多くは一次医療機関で発見されているため、一次医療機関への啓発の継続が必要である。

3. 陽性者への支援のための対策

1) エイズ拠点病院との連携した陽性者支援

- ・エイズ拠点病院との連携マニュアルの確認
- ・陽性者の服薬支援に関する保健所とエイズ拠点病院の連携

2) 感染不安の軽減と行動変容のための検査・相談体制の充実

- ・HIV抗体検査時の陽性者マニュアルの作成(平成27年度)

【内容】

- ・HIV抗体検査フロー図
- ・確認検査結果陽性者のカウンセリング参考例
- ・カウンセリング時の支援者に求められる態度
- ・HIV/AIDSの基礎知識
- ・治療費の参考例
- ・エイズ拠点病院との連携マニュアル
- ・福祉制度
- ・相談、交流
- ・配布パンフレット

3. 陽性者への支援のための対策

【課題】

- ・陽性者マニュアルを確認し対応する。
- ・陽性者のスムーズな受診につながるよう拠点病院と連携し、保健所の支援体制を確立する。